

プロジェクト課題 No.2

ねぎの次世代担い手育成による産地の強化



活動期間 : 令和6年度～令和8年度

対象者 : JA 新みやぎあさひなねぎ部会 若手生産者5人 (同部会員72人)

チーム員 : ◎小野寺恭子、上山啓一、菅原克哉、蘇武真、丸田凌太郎

1. 課題の背景・ねらい

【背景・ねらい】

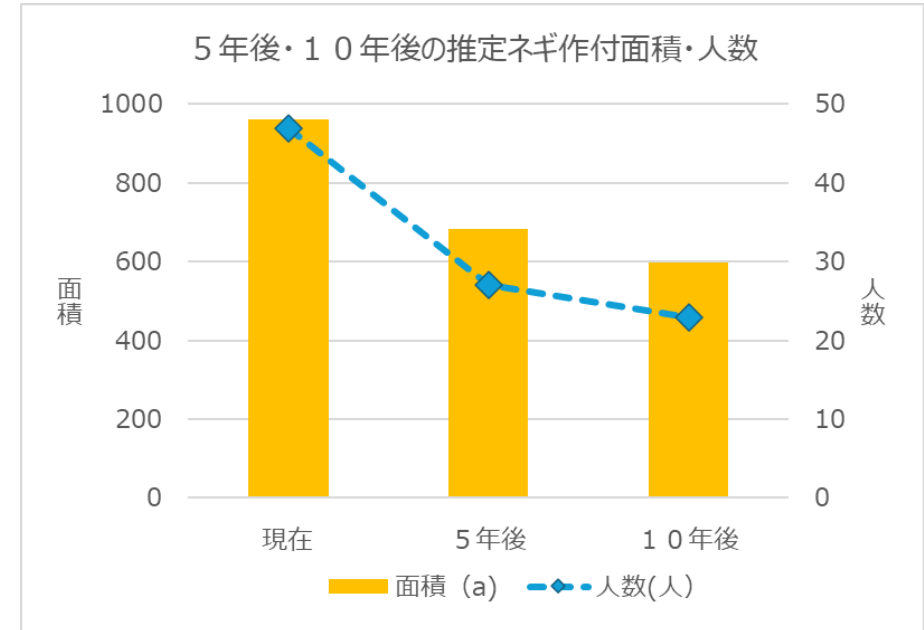
- JA 新みやぎあさひなねぎ部会（72人、13ha）では、高齢化により今後の産地維持が課題。
 - ➡ 担い手となる若手生産者の育成が急務
- 対象者5人は、20～40代の若手で、規模拡大の意向もあることから重点的に支援することで、産地維持に向けた中核的存在となることを期待。

【令和7年度定性的目標】

- 若手生産者の栽培技術が向上し、ねぎの収量及び品質が向上する。
- 若手生産者間でネットワーク形成への動きが強まる。
- 産地の維持・発展に向けて部会全体で共通認識が生まれる。

【定量的数値目標】

部会平均単収の到達者数 R5現状 R6目標 R7目標 R8目標
1人 ➡ 1人 ➡ 3人 ➡ 5人



ねぎ生産振興（経営）に関するアンケート調査
回収率65%（回収47戸/対象72戸）

2. 活動内容

(1) 若手生産者の栽培技術向上支援

定期的な巡回



技術情報「ねぎ通信」の発行

4回 (5/15、7/18、10/1、1/15)



若手農業者先進地視察研修

8/19 山形県天童市



部会行事と連携した支援

6/19 栽培講習会



7/15 現地検討会



2. 活動内容

(2) 若手生産者間のネットワーク形成支援

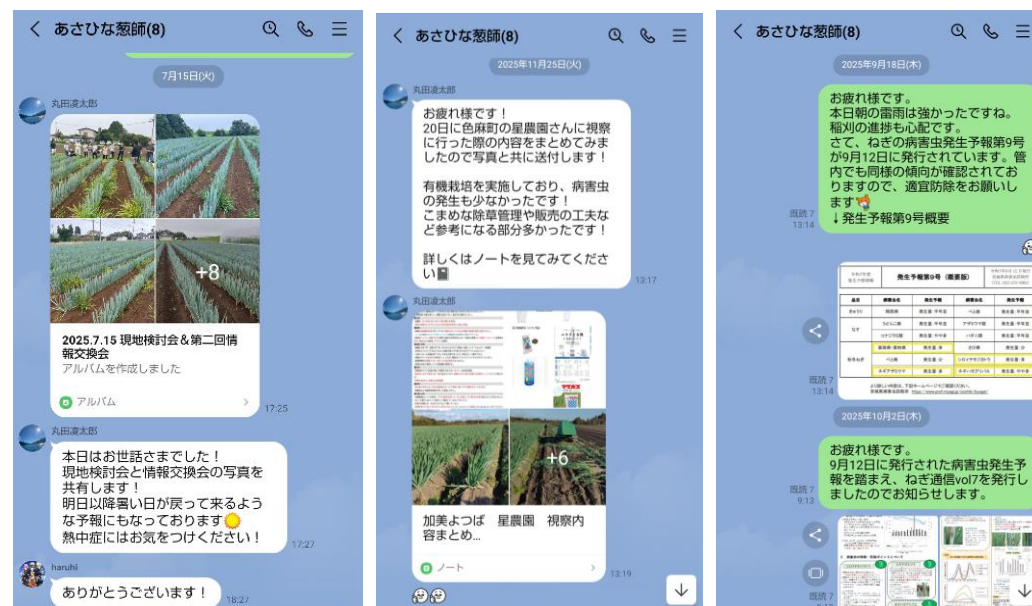
情報交換会の開催

3回 (6/19、7/15、1/22)



SNSを活用したネットワーク形成支援

巡回時の生育状況共有の他、ねぎ通信、
予察情報、各種研修会を情報提供



2. 活動内容

(3) 産地の維持に向けた協議支援

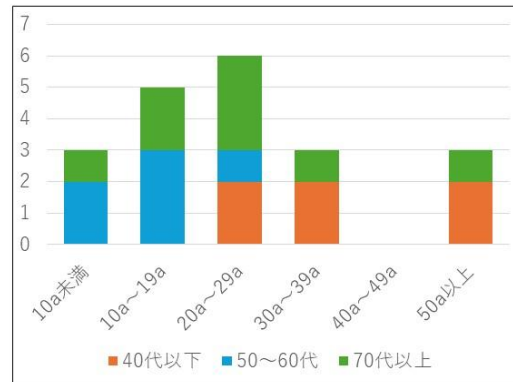
アンケート結果のフィードバック

「ねぎ生産振興（経営）に関するアンケート調査
回収率65%（回収47戸/対象72戸）

年代別の規模拡大意向

	縮小 辞める	拡大 現状維持	無回答
20代	0	2	0
30代	0	1	0
40代	0	3	1
50代	1	2	1
60代	4	4	1
70代	11	8	2
80代以上	3	1	1
無回答	1	0	0

年代と現在の作付面積



20代~40代で、拡大または現状維持の意向を示す経営体がある
若手ほど現在の作付け面積も大きい
⇒今後の産地継承につながる可能性

先進地視察

8/5 矢本葱生産組合



経営改善のための技術検討

春ねぎ（初夏どり）
実証試験



3.活動の成果

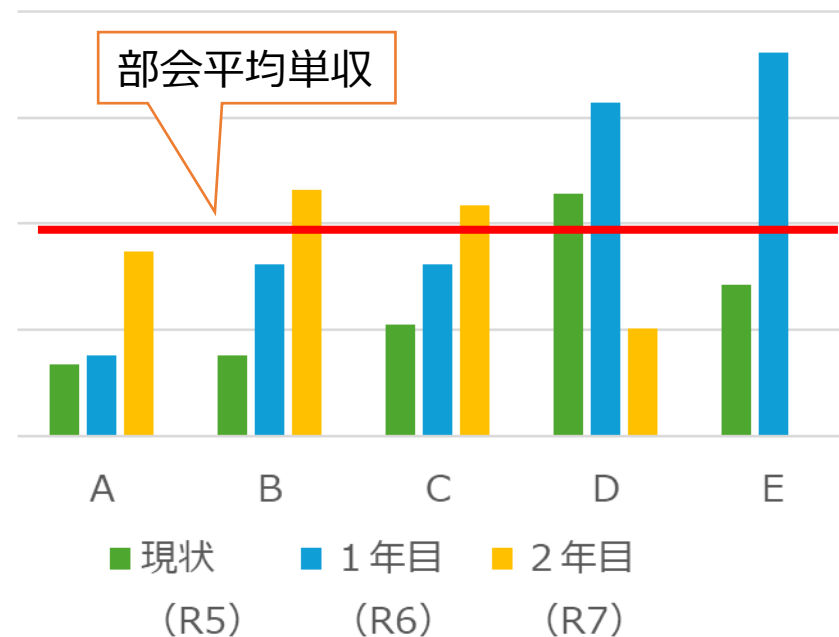
【栽培技術向上支援】

R7は夏場の高温乾燥に苦戦 (部会全体でも単収低迷)

- 定期的な巡回指導
- ねぎ通信の発行
発生初期の病害虫防除実施
作型分散で収穫を前進化
→栽培管理技術が向上
- 先進地視察研修
規模拡大、土づくり等への関心の高まり
→緑肥の作付け、作業機械導入等の動き

意欲的な取り組みが見られる

部会平均単収※との比較



※ R7部会平均単収
1.4t/10a

部会平均単収の到達者数 R7目標：3人 実績：2人

3. 活動の成果

【産地維持のための協議】

- アンケート結果のフィードバック
産地の抱える課題が明確化
意欲ある若手生産者支援の重要性を共有化
- 先進地視察研修
家族経営（1.5ha）ブームスプレーヤー、自走式全自動収穫機導入事例を視察
若手生産者の規模拡大意欲、機械化体系への関心が向上



- 収穫期分散に向けた実証試験
あさひな地域における春ねぎ（初夏どり）の定植適期と品種について検討

区分	品種	播種日	定植日	品質調査（7月17日時点）※					
				全長 (cm)	葉鞘径 (mm)	抽苔率 (%)	規格別割合 (%)		
							L	M	S
A	羽緑2号	8月12日	11月19日	94.2	15.6	0	20	75	5
B	初夏扇2号	8月12日	11月19日	76.1	14.1	0	10	45	45
C	初夏扇2号	8月31日	12月14日	-	-	(0)	-	-	-

出荷には至らなかったが、7月末まで抽苔は見られず
収穫期分散につながる可能性が示唆
令和8年産で対象者2名が試験的に導入

